



10月27日から読書週間（～11月9日）がスタート。今年の標語は「いつだって、読書日和」です。皆さんはこの標語でどんな風景を思い浮かべますか？そう、その何かが頭に浮かぶことが、本を読む第一歩です。言葉を読んで、聞いて、想像する。さあ第一歩を踏み出しましょう。

私のオススメは「ママ、ごはんまだ？」です。

著者は歌手の一青窈さんのお姉さんの一青妙さん。台湾出身の父と結婚した母が残した、台湾料理のレシピノートを見つけた著者が、幼少期から学生時代にかけて、台湾と日本で過ごした家族の思い出をエッセイにしています。

見たこともない料理が香りと一緒に目の前に現れたようで、とても美味しそうなのは、ノートに込められた母の家族愛なんだなあと思います。また著者の家族への、特にお母さんへの気持ちが温かく感じられます。

読み終わった後は、夕飯のおかずを作る母の後ろにくっついて「味見してね」と言われるのが楽しみだった、幼い頃を思い出しました。（Nさん）

「図書館戦争」シリーズ 有川浩 著

タイトルからして堅そうなこの小説は、シリーズ化され、さらに映画化やアニメ化までされています。確かに漢字が多くて（イメージです）厚みがある本で、見ただけで尻込みしそうですが、読み始めると止まらない。アクションだけでなく恋愛王道のツンデレも満載。ぜひ手に取ってみてください。（Tさん）



「うずらちゃんのかくれんぼ」 きもとももこ 作

「子どもが本好きになってくれたらいいな…。よし読み聞かせだ！」と思い立ち、子どもに合う本を探しました。でも、どんな本が良いかわからず色々読んでみて、子どもが一番気に入ったのがこの絵本でした。

0歳から読み聞かせを始めましたが、意味がわからなくても、色が鮮やかで子どもの興味を引くようです。主人公が自分と似た植物に隠れて遊ぶストーリーで、可愛らしく微笑ましく描かれていて、親子で楽しめます。子どもが2歳になった今もお気に入りの一冊です。（Mさん）



私のイチオシは、「ぐりとぐら」（中川李枝子作・山脇百合子絵）です。食べることと料理をすることが大好きな双子の野ネズミの話で、青の帽子が「ぐり」、赤の帽子が「ぐら」です。本書に出てくるふわふわの黄色いカステラを作りたい！食べてみたい！と思った人が多いのでは…。私もその中の1人です。そして巨大なたまごの殻で作った車。乗り心地はどうなのだろう？フライパンを運んで割れないの？とドキドキワクワクが止まりません。シリーズもたくさん出ているので、ぜひ読んでみてください。（Fさん）



いっしょにまちづくり



「常陸大宮市のまちづくり」への提案を発表

私たちは地域課題入門を受講し、様々な話を聞いたり、まちを歩いたりして提案をまとめ、発表しました。

その提案とは、袋田の滝や竜神大吊り橋等に訪れる観光客が、市内に立ち寄り滞在してもらうため、新しくできる「道の駅」を活用する方法です。まず道の駅に宿泊施設と畑を併設します。宿泊客は野菜の収穫体験や久慈川での魚捕りを体験し、市の自然と食を満喫してもらいます。次にポイントカード制を導入し、野菜等が貰えるシステムを作れば、リピーターが増えると思います。

また体験学習として、子どもたちに畑で収穫から料理・加工を行ってもらいます。最後はふるしきにご当地のお土産にすることで、二重のアピールができます。これらの活用法で、道の駅が旅行の目的地になってもらえればと思います。



茨城大学人文学部
1年C班